

日本化薬グループは、企業ビジョンであるKAYAKU spirit 「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」を実現するための企業活動としてCSR経営を行っています。事業活動と連動した中期CSRアクションプランをご紹介します。

中期 CSR アクションプラン

日本化薬グループでは、2016年4月1日より開始している3カ年中期事業計画 **Take a New Step 2016** と連動させた中期CSRアクションプラン 2016-2018を策定しました。

中期事業ビジョンである「生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える最良の製品・技術・サービスを提供し続ける」を4つの事業を通じて実現し、持続可能な社会・環境に貢献しながら、いい会社・強い会社を目指します。これは、管理部門を含む各事業部と各連結グループ会社から届いた400件以上のアクションプランを整理し17項目に取りまとめたグループ総意としての中期CSRアクションプランです。



各アクションプランの詳細は次の「中期CSRアクションプラン2016-2018」表をご覧ください。また、図中の数字は、アクションプランの項目と一致しています。

中期 CSRアクションプラン 2016-2018

分類	No	中期CSRアクションプラン 2016-2018
 安全と 衛生を守る	1	得意技術によるイノベーション推進と高品質な医薬品を信頼性の高い情報と共に安定供給することによって社会に貢献する
	2	より多くの自動車安全部品をグローバルに供給することで、自動車衝突安全性の向上、人々の安全に貢献する
	3	研究開発を進行し、最良の製品を提供し続けることにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを支え社会に貢献する
 豊かな暮らし を支える	4	情報・通信、省エネルギー・省資源分野へ特徴のある機能化学品材料を提供し、「超スマート社会」の実現に貢献する※1
	5	市場環境や顧客ニーズに適合した農薬を提供し、安定した農業生産に寄与する
	6	サプライチェーンマネジメントを推進する
 持続可能な社会・環境 に貢献する	7	製品品質に対する顧客満足度のさらなる向上を図る
	8	省資源・省エネルギー・地球温暖化対策を推進し環境保全に寄与する
	9	廃水処理に関する環境保全技術を向上させる
	10	地域社会とのコミュニケーションを通じて地域社会との共生と発展に貢献する
 いい会社 になる	11	ステークホルダーに対して適時適切な情報発信による対話を行う
	12	人権尊重とワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供し、人材育成とダイバーシティを推進する
	13	事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持する
	14	成長する企業グループとして安定的な収益を確保する
	15	有事においても事業継続性を確保する
	16	グループ全体へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る
	17	グループ全体のコーポレート・ガバナンスの強化を図る

※1：2017年4月より表現を一部変更

▶ [中期CSRアクションプラン2016-2018](#)

中期 CSR アクションプラン 2016-2018 と ISO26000 の関係

日本化薬グループは、ISO26000の7つの中核主題及びその37の課題と中期CSRアクションプラン2016-2018の各アクションプランの対応表を作成しています。

Take a New Step 2018
中期CSRアクションプラン 2016-2018 と ISO26000 の関係

No	中期CSRアクションプラン 2016-2018	中核主題						
		環境	労働関係	社会	消費者	製品	情報	その他
1	得意技術によるイノベーション推進と高品質な医薬品を信頼性の高い情報と共に安定供給することによって社会に貢献する							
2	より多くの自動車安全部品をグローバルに供給することで、自動車衝突安全性の向上、人々の安全に貢献する							
3	研究開発を進行し、最良の製品を提供し続けることにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを支え社会に貢献する							
4	情報・通信、省エネルギー・省資源分野へ特徴のある機能化学品材料を提供し、「超スマート社会」の実現に貢献する※1							
5	市場環境や顧客ニーズに適合した農薬を提供し、安定した農業生産に寄与する							
6	サプライチェーンマネジメントを推進する							
7	製品品質に対する顧客満足度のさらなる向上を図る							
8	省資源・省エネルギー・地球温暖化対策を推進し環境保全に寄与する							
9	廃水処理に関する環境保全技術を向上させる							
10	地域社会とのコミュニケーションを通じて地域社会との共生と発展に貢献する							
11	ステークホルダーに対して適時適切な情報発信による対話を行う							
12	人権尊重とワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供し、人材育成とダイバーシティを推進する							
13	事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持する							
14	成長する企業グループとして安定的な収益を確保する							
15	有事においても事業継続性を確保する							
16	グループ全体へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る							
17	グループ全体のコーポレート・ガバナンスの強化を図る							

▶ [中期CSRアクションプラン2016-2018とISO26000の関係](#)

CSR アクションプラン 2016 の結果と CSR アクションプラン 2017

日本化薬グループでは、中期CSRアクションプラン2016-2018の達成に向けて、各年度のCSRアクションプランを策定してPDCAを回しています。初

CSRアクションプラン2016の結果

No	中期CSRアクションプラン2016-2018	CSRアクションプラン2016の結果	CSRアクションプラン2017の結果	進捗状況
1	研究開発によるイノベーション推進と高品質な次世代品を世界的に提供し、信頼と安心を醸成することにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを実現することを目指す	研究開発によるイノベーション推進と高品質な次世代品を世界的に提供し、信頼と安心を醸成することにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを実現することを目指す	研究開発によるイノベーション推進と高品質な次世代品を世界的に提供し、信頼と安心を醸成することにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを実現することを目指す	●
2	より多くの自動車安全部品をグローバルに供給することで、自動車安全の向上に貢献することを目指す	国内、海外各拠点で生産体制の拡充・強化を進め、安全接合をもとに、世界の各地域においてグローバル市場の高まるニーズにマッチした新世代の製品の設計・生産・販売を計画通り実施	国内、海外各拠点で生産体制の拡充・強化を進め、安全接合をもとに、世界の各地域においてグローバル市場の高まるニーズにマッチした新世代の製品の設計・生産・販売を計画通り実施	●
3	研究開発を推進し、最先端の製品を提供し、顧客の期待に応えることにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを実現することを目指す	社会ニーズ(顧客価値)を的確に捉え、最先端の製品に際する研究開発を推進(社内外の知的財産を融合した継続的研究開発の進行、組織横断的な研究開発の場の提供と適宜、コーポレート研究チームの活用など)により、生命と健康を守り豊かな暮らしを実現することを目指す	社会ニーズ(顧客価値)を的確に捉え、最先端の製品に際する研究開発を推進(社内外の知的財産を融合した継続的研究開発の進行、組織横断的な研究開発の場の提供と適宜、コーポレート研究チームの活用など)により、生命と健康を守り豊かな暮らしを実現することを目指す	●
4	情報・通信、省エネ・省資源分野へ対応のある機能化学材料を提供し、「スマート社会」の実現に貢献することを目指す	半導体、電子デバイスの軽薄短小化、デジタル印刷の進展に貢献する機能化学材料を提供する	半導体、電子デバイスの軽薄短小化、デジタル印刷の進展に貢献する機能化学材料を提供する	●
5	市場環境や顧客ニーズに合わせた製品を提供し、安定した産業生産に寄与することを目指す	新規技術の上市と製法技術を活かした工芸製品の開発、既存品の活用拡大	新規技術の上市と製法技術を活かした工芸製品の開発、既存品の活用拡大	●
6	サプライチェーンマネジメントを推進する	CSR関連の推進による調達リスクの低減と安定調達を確保し、品質向上と適正調達を推進	CSR関連の推進による調達リスクの低減と安定調達を確保し、品質向上と適正調達を推進	●
7	製品品質に対する顧客満足度のさらなる向上を図る	最大顧客層の満足度を向上させるため、なぜなぜ分析の実施、ヒューマンエラー防止の取り組み、再発防止策の水平展開、リスクマネジメントを継続して実施	最大顧客層の満足度を向上させるため、なぜなぜ分析の実施、ヒューマンエラー防止の取り組み、再発防止策の水平展開、リスクマネジメントを継続して実施	●
8	省資源・省エネ・省資源分野へ対応のある機能化学材料を提供し、環境負荷低減に寄与することを目指す	2020年度中期環境目標に向けた取り組みの推進	2020年度中期環境目標に向けた取り組みの推進	●
9	廃棄物に関する環境保全技術の向上を図る	エネルギー使用効率向上率を1%以上削減の取り組みの推進	エネルギー使用効率向上率を1%以上削減の取り組みの推進	●
10	地域社会とのコミュニケーションを通じて、地域社会との共生と発展に貢献することを目指す	グループ会社を含めた環境技術の向上のため、廃棄物削減技術および廃棄物処理最適化を検討、実施	各地域における工場・事業所、地域連携活動、ピンクリボン活動・子ども体験型イベント等の継続実施	●
11	ステークホルダーに対して透明で適切な情報発信による対応を行う	企業価値向上を重視した財務・非財務情報タイムリーかつ公平・公正に開示するとともに、ステークホルダーとの対話を促進	企業価値向上を重視した財務・非財務情報タイムリーかつ公平・公正に開示するとともに、ステークホルダーとの対話を促進	●
12	人権尊重とワークライフバランスの向上を図る	多様な人材が活躍できる環境づくりと人材育成(ダイバーシティ&インクルージョン)	多様な人材が活躍できる環境づくりと人材育成(ダイバーシティ&インクルージョン)	●
13	事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持することを目指す	従業員への安全意識の向上と安全文化の醸成	従業員への安全意識の向上と安全文化の醸成	●
14	成長する企業グループとして安定した収益を確保することを目指す	経営資源の最適配分と資本効率化を図り、中期事業計画の達成を目指す	経営資源の最適配分と資本効率化を図り、中期事業計画の達成を目指す	●
15	有事においても事業継続性を確保することを目指す	現場に即した訓練の実施、BCPマニュアルの見直しを継続実施	現場に即した訓練の実施、BCPマニュアルの見直しを継続実施	●
16	グループ会社へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る	グループ会社を含めたCSR・コンプライアンス研修の継続実施	グループ会社を含めたCSR・コンプライアンス研修の継続実施	●
17	グループ会社のコーポレート・ガバナンスの強化を図る	内部統制、リスク管理の継続実施と体制強化	内部統制、リスク管理の継続実施と体制強化	●

CSRアクションプラン2016の結果 PDF

CSRアクションプラン2017





No	中期CSRアクションプラン2016-2018	CSRアクションプラン2017
1	研究開発によるイノベーション推進と高品質な次世代品を世界的に提供し、信頼と安心を醸成することにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを実現することを目指す	研究開発によるイノベーション推進と高品質な次世代品を世界的に提供し、信頼と安心を醸成することにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを実現することを目指す
2	より多くの自動車安全部品をグローバルに供給することで、自動車安全の向上に貢献することを目指す	国内、海外各拠点で生産体制の拡充・強化を進め、安全接合をもとに、世界の各地域においてグローバル市場の高まるニーズにマッチした新世代の製品の設計・生産・販売を計画通り実施
3	研究開発を推進し、最先端の製品を提供し、顧客の期待に応えることにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを実現することを目指す	社会ニーズ(顧客価値)を的確に捉え、最先端の製品に際する研究開発を推進(社内外の知的財産を融合した継続的研究開発の進行、組織横断的な研究開発の場の提供と適宜、コーポレート研究チームの活用など)により、生命と健康を守り豊かな暮らしを実現することを目指す
4	情報・通信、省エネ・省資源分野へ対応のある機能化学材料を提供し、「スマート社会」の実現に貢献することを目指す	半導体、電子デバイスの軽薄短小化、デジタル印刷の進展に貢献する機能化学材料を提供する
5	市場環境や顧客ニーズに合わせた製品を提供し、安定した産業生産に寄与することを目指す	新規技術の上市と製法技術を活かした工芸製品の開発、既存品の活用拡大
6	サプライチェーンマネジメントを推進する	CSR関連の推進による調達リスクの低減と安定調達を確保し、品質向上と適正調達を推進
7	製品品質に対する顧客満足度のさらなる向上を図る	最大顧客層の満足度を向上させるため、なぜなぜ分析の実施、ヒューマンエラー防止の取り組み、再発防止策の水平展開、リスクマネジメントを継続して実施
8	省資源・省エネ・省資源分野へ対応のある機能化学材料を提供し、環境負荷低減に寄与することを目指す	2020年度中期環境目標に向けた取り組みの推進
9	廃棄物に関する環境保全技術の向上を図る	エネルギー使用効率向上率を1%以上削減の取り組みの推進
10	地域社会とのコミュニケーションを通じて、地域社会との共生と発展に貢献することを目指す	各地域における工場・事業所、地域連携活動、ピンクリボン活動・子ども体験型イベント等の継続実施
11	ステークホルダーに対して透明で適切な情報発信による対応を行う	企業価値向上を重視した財務・非財務情報タイムリーかつ公平・公正に開示するとともに、ステークホルダーとの対話を促進
12	人権尊重とワークライフバランスの向上を図る	多様な人材が活躍できる環境づくりと人材育成(ダイバーシティ&インクルージョン)
13	事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持することを目指す	従業員への安全意識の向上と安全文化の醸成
14	成長する企業グループとして安定した収益を確保することを目指す	経営資源の最適配分と資本効率化を図り、中期事業計画の達成を目指す
15	有事においても事業継続性を確保することを目指す	現場に即した訓練の実施、BCPマニュアルの見直しを継続実施
16	グループ会社へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る	グループ会社を含めたCSR・コンプライアンス研修の継続実施
17	グループ会社のコーポレート・ガバナンスの強化を図る	内部統制、リスク管理の継続実施と体制強化

CSRアクションプラン2017 PDF



PDF形式のファイルをご覧になるためにはAdobe Readerが必要です。Adobe Readerをお持ちでない場合は、左のアイコンからダウンロードして下さい。

中期 CSRアクションプラン 2016-2018

分類	No	中期 CSR アクションプラン 2016-2018
 生命と健康を守る	1	得意技術によるイノベーション推進と高品質な医薬品を信頼性の高い情報と共に安定供給することによって社会に貢献する
	2	より多くの自動車安全部品をグローバルに供給することで、自動車衝突安全性の向上、人々の安全に貢献する
	3	研究開発を遂行し、最良の製品を提供し続けることにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを支え社会に貢献する
 豊かな暮らしを支える	4	情報・通信、省エネルギー・省資源分野へ特徴のある機能化学品材料を提供し、「超スマート社会」の実現に貢献する※1
	5	市場環境や顧客ニーズに適した農薬を提供し、安定した農業生産に寄与する
 持続可能な社会・環境に貢献する	6	サプライチェーンマネジメントを推進する
	7	製品品質に対する顧客満足度のさらなる向上を図る
	8	省資源・省エネルギー・地球温暖化対策を推進し環境保全に寄与する
	9	廃水処理に関する環境保全技術を向上させる
	10	地域社会とのコミュニケーションを通じて地域社会との共生と発展に貢献する
 いい会社・強い会社になる	11	ステークホルダーに対して適時適切な情報発信による対話を行う
	12	人権尊重とワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供し、人材育成とダイバーシティを推進する
	13	事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持する
	14	成長する企業グループとして安定的な収益を確保する
	15	有事においても事業継続性を確保する
	16	グループ全体へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る
	17	グループ全体のコーポレート・ガバナンスの強化を図る

※1：2017年4月より表現を一部変更

中期CSRアクションプラン2016-2018とISO26000の関係

分類	No	中期CSRアクションプラン2016-2018	ISO26000との対応																		
			組織統治		人権								労働慣行					環境			
			課題1:意思決定プロセス及び構造	課題1:チェーンデリジェンス	課題2:人権に関する機動的状況	課題3:加担の回避	課題4:苦情解決(※非該当)	課題5:差別及び社会的弱者	課題6:市民的及び政治的権利	課題7:経済的・社会的及び文化的権利	課題8:労働における基本的原則および権利	課題1:雇用及び雇用関係	課題2:労働条件及び社会的保護	課題3:社会的対話(※非該当)	課題4:労働における安全衛生	課題5:職場における人材育成および訓練	課題1:汚染の予防	課題2:持続可能な資源の活用	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応	課題4:環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復	
健康を 守る 生命と	1	得意技術によるイノベーション推進と高品質な医薬品を信頼性の高い情報と共に安定供給することによって社会に貢献する																			
	2	より多くの自動車安全部品をグローバルに供給することで、自動車衝突安全性の向上、人々の安全に貢献する																			
	3	研究開発を遂行し、最良の製品を提供し続けることにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを支え社会に貢献する																			
支える 豊かな 暮らしを	4	情報・通信、省エネルギー・省資源分野へ特徴のある機能化学品材料を提供し、「超スマート社会」の実現に貢献する※1																	○	○	○
	5	市場環境や顧客ニーズに適合した農業を提供し、安定した農業生産に寄与する																	◎		◎
に 社会・環境 に 貢献する 持続可能な	6	サプライチェーンマネジメントを推進する		◎	◎	○														○	
	7	製品品質に対する顧客満足度のさらなる向上を図る																			
	8	省資源・省エネルギー・地球温暖化対策を推進し環境保全に寄与する																		◎	◎
	9	廃水処理に関する環境保全技術を向上させる																		◎	○
	10	地域社会とのコミュニケーションを通じて地域社会との共生と発展に貢献する									○										
いい 会社・ 強い 会社になる	11	ステークホルダーに対して適時適切な情報発信による対話を行う	○																		
	12	人権尊重とワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供し、人材育成とダイバーシティを推進する		◎	◎							○	◎		○	◎					
	13	事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持する													◎					○	
	14	成長する企業グループとして安定的な収益を確保する	◎																		
	15	有事においても事業継続性を確保する	◎												○						
	16	グループ全体へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る	◎			○				○	○	○	○								
	17	グループ全体のコーポレート・ガバナンスの強化を図る	◎																		

※1：2017年4月より表現を一部変更

分類	No	中期CSRアクションプラン2016-2018	ISO26000との対応																			
			公正な事業慣行					消費者課題							コミュニティ参画及び発展							
			課題1:汚職防止	課題2:責任ある政治的関与	課題3:公正な競争	課題4:バリエーションにおける社会的責任の推進	課題5:財産権の尊重	課題1:公正なマーケティング、事実に基づく偏りのない情報、及び契約慣行	課題2:消費者の安全衛生の保護	課題3:持続可能な消費	課題4:消費者に対するサービス、支援並びに苦情及び紛争の解決	課題5:消費者データ保護及びプライバシー	課題6:不可欠なサービスへのアクセス(※非該当)	課題7:教育及び意識向上	課題1:コミュニティへの参画	課題2:教育及び文化	課題3:雇用創出及び技能開発	課題4:技術の開発及び技術へのアクセス	課題5:富及び所得の創出	課題6:健康	課題7:社会的投資	
健康を 守る 生命と	1	得意技術によるイノベーション推進と高品質な医薬品を信頼性の高い情報と共に安定供給することによって社会に貢献する																				
	2	より多くの自動車安全部品をグローバルに供給することで、自動車衝突安全性の向上、人々の安全に貢献する																				
	3	研究開発を遂行し、最良の製品を提供し続けることにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを支え社会に貢献する																				
支える 豊かな 暮らしを	4	情報・通信、省エネルギー・省資源分野へ特徴のある機能化学品材料を提供し、「超スマート社会」の実現に貢献する※1																				
	5	市場環境や顧客ニーズに適合した農業を提供し、安定した農業生産に寄与する																				
に 社会・環境 に 貢献する 持続可能な	6	サプライチェーンマネジメントを推進する			○	◎																
	7	製品品質に対する顧客満足度のさらなる向上を図る				○																
	8	省資源・省エネルギー・地球温暖化対策を推進し環境保全に寄与する																				
	9	廃水処理に関する環境保全技術を向上させる																				
	10	地域社会とのコミュニケーションを通じて地域社会との共生と発展に貢献する												○	◎	◎	○	○	○	○	○	○
いい 会社・ 強い 会社になる	11	ステークホルダーに対して適時適切な情報発信による対話を行う																				
	12	人権尊重とワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供し、人材育成とダイバーシティを推進する																				
	13	事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持する																				
	14	成長する企業グループとして安定的な収益を確保する			○																	
	15	有事においても事業継続性を確保する				○																
	16	グループ全体へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る	○	○	○	○	○	○	○	○												
	17	グループ全体のコーポレート・ガバナンスの強化を図る	○	○	○	○	○	○	○	○												

※1：2017年4月より表現を一部変更

CSRアクションプラン2016の結果

★★★ 達成
★★☆ ほぼ達成
★☆☆ 努力中
☆☆☆ 未達

分類	No	中期CSRアクションプラン2016-2018	CSRアクションプラン2016 計画	CSRアクションプラン2016 結果	単年評価
 生命と健康を守る	1	得意技術によるイノベーション推進と高品質な医薬品を信頼性の高い情報と共に安定供給することによって社会に貢献する	抗がん薬内包高分子ミセルの開発推進 ジェネリック抗がん薬の遅滞ない開発・上市と抗体バイオシミラーの治療提供	NK105 乳癌国際共同試験については主要評価項目が未達成、今後の臨床試験計画を立案中 ジェネリック剤3剤上市、バイオシミラーの開発は順調に進捗	★☆☆ ★★★
	2	より多くの自動車安全部品をグローバルに供給することで、自動車衝突安全性の向上、人々の安全に貢献する	国内、海外各拠点での増産体制構築を予定通り遂行し、安全操業をもとに、世界の各地域において高品質な製品を提供 グローバル市場の高まるニーズにマッチした新世代の製品の設計・生産・販売を計画通り実施	国内、海外各拠点で生産体制の拡充・強化を予定通り実施、より多くの自動車安全部品を世界に供給 グローバル市場からの品質要求に対応できる製品を目指し新世代製品の開発を実施中	★★★ ★★★
	3	研究開発を遂行し、最良の製品を提供し続けることにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを支え社会に貢献する	研究開発の実行及びグループ内の知的財産・技術の連携と融合や社外とのオープンイノベーションの推進により、新製品・新事業を創出 知的財産の創造・保護・活用とグローバル管理体制の確立	・グループ内外の研究機関と共同研究を推進 ・各研究所と連携しコーポレート研究3件を新規立ち上げ ・全社研究発表大会や分析評価技術交流会等を開催し、知的財産・技術の融合を図る取り組みを実施 中国グループ会社でのグローバル管理体制を確立	★☆☆ ★★★
	4	情報・通信、省エネルギー・省資源分野へ特徴のある機能化学品材料を提供し、「超スマート社会」の実現に貢献する*	低環境負荷・省エネルギーに貢献するエポキシ樹脂や産業用インクジェットで事業展開を推進、アクリル酸製造用高性能触媒の開発・上市	・環境対応型エポキシ樹脂や産業用インクジェットで事業展開を推進 ・アクリル酸製造用高性能触媒も鋭意開発中	★★★★
	5	市場環境や顧客ニーズに適合した農業を提供し、安定した農業生産に寄与する	新規殺虫剤の上市に向けた準備の遂行と製剤化技術を活かした工夫製剤の開発、既存剤の適用拡大	新規殺虫剤の登録作業等を進め、農業安全使用説明会を各担当地域で実施	★★★★
 持続可能な社会・環境に貢献する	6	サプライチェーンマネジメントを推進する	CSR調達の推進による調達リスクの低減と安定調達を確保し、品質向上と適正購買を推進	・監査、調査等を通じて積極的にサプライヤーとのコミュニケーションをとることで調達リスクを把握し安定調達を確保 ・CSR調達に対するサプライヤーへの周知活動を展開	★★★
	7	製品品質に対する顧客満足度のさらなる向上を図る	重大顧客苦情の発生ゼロを継続する活動を引続き実施(なぜなぜ分析、発生事例の横展開、ヒューマンエラー防止等) セーフティシステムズ事業におけるグローバル品質保証体制の強化	重大顧客苦情: 0件*2 [なぜなぜ分析]・品質技術教育等による職場力強化のための品質保証活動は継続して実施 品質保証本部を設置し、グローバルな体制を強化	★★☆ ★★☆
	8	省資源・省エネルギー・地球温暖化対策を推進し環境保全に寄与する	2020年度中期環境目標に向けた取り組みの推進 エネルギー使用原単位対前年度比1%以上削減の取り組みの推進	2015年度の実績を踏まえ、2020年度の中期環境目標を見直し、より厳しい目標に向かって取り組みを開始 省エネ機器更新やエネルギー使用方法の見直し等を推進、省エネ点検も実施	★★☆ ★★☆
	9	廃水処理に関する環境保全技術を向上させる	グループ会社を含めた既存廃水処理技術の見直しと新規処理技術の探索	プロジェクトを組み、既存廃水処理技術の見直しと新規処理技術の探索を実施、今後の成果に向け活動中	★★☆
	10	地域社会とのコミュニケーションを通じて地域社会との共生と発展に貢献する	各地域における工場祭・懇談会・地域清掃活動・ピンクリボン活動・子ども体験型イベント等の実施、「あすなるの家」の維持運営	・ピンクリボン活動: 10月に海外グループ会社も含め各事業場で活動を実施 ・子ども体験型イベント(教育CSR): 各事業場やイベントで化学実験ショーを実施 ・工場祭・懇談会等: 計画通り実施 ・「あすなるの家」利用家族数: 104家族(稼働率51%)	★★★
 いい会社・強い会社になる	11	ステークホルダーに対して適時適切な情報発信による対話を行う	ステークホルダーに対する非財務情報の開示充実化、株主・投資家との対話による相互理解の促進 財務情報の適時適切な開示とIFRS※導入に向けての準備	事業報告書では任意記載事項を充実し、アニュアルレポートでは企業価値創造プロセスを説明し非財務情報を充実化 IFRS導入検討プロジェクトの活動を継続して実施	★★☆ ★★☆
	12	人権尊重とワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供し、人材育成とダイバーシティを推進する	多様な人材が活躍できる環境づくりと人材育成(女性活躍推進法への対応、グローバル人材育成、製造技術の継承・発展のための教育等) 次世代育成支援対策推進法に則した取り組みの推進(育児・介護の支援、男性の育児参加促進、時間外労働の削減、有給休暇取得率の向上等)	・「女性の活躍推進に向けた取り組み」行動計画を策定し、目標及び行動計画を社内外に公表 ・製造技術の継承・発展のための教育を各事業場・グループ会社にて継続実施(女性管理職登用比率: 6.7%*2、障がい者の法定雇用率: 2.1%*2) ・「プラチナくるみん」認定に向け各種の取り組みを実施、本年度末実績で申請予定 ・育児、介護休暇を半日単位でも取得可能に制度を変更	★★☆ ★★☆
	13	事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持する	従業員の労働安全衛生へ配慮した健康経営の推進(メンタルヘルス研修の継続実施、ストレスチェックの実施、データヘルス計画の推進等) 事故災害を未然に防止するための活動の継続実施(防災訓練、安全審査、管理者による現場巡視、従業員教育等) グループ各社で「日本化薬グループ2016年度レスポンシブル・ケア方針」に基づく安全衛生活動を推進	・メンタルヘルス研修受講率、健康診断受診率ともに100%達成*2 ・ストレスチェックを実施、高ストレス者への対応も実施 ・重大事故災害の発生: 0件*2 ・化学物質管理の強化を目的としたリスクアセスメントの社内浸透活動を実施 ・全社レスポンシブル・ケア方針・目標を各グループ会社へ周知するとともに、環境安全衛生診断等で取り組み状況を確認 ・グループ各社で安全衛生活動(各種安全教育、KYT、ヒヤリハットなど)を継続して実施	★★★ ★★★ ★★☆
	14	成長する企業グループとして安定的な収益を確保する	経営資源の最適配置と資本効率化を図り、収益の向上を目指した事業運営	・売上高計画は未達成となったもののコストダウンを推進し営業利益は計画を達成 ・資本効率化を目指し、適正在庫管理を徹底、遊休資産の売却を推進	★★★
	15	有事においても事業継続性を確保する	現場に則した訓練の実施、BCPマニュアルの見直しを実施	・台風被害を想定したBCP訓練を触媒事業部および厚狭工場を対象として実施 ・中国グループ会社2社のBCPマニュアルを策定	★★★
	16	グループ全体へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る	グループ会社を含めたCSR・コンプライアンス研修の継続実施 各国・地域の法令遵守、法改正等への迅速かつ適正な対応	・CSR研修: グループ会社7社73人を含め12回260人に実施 ・コンプライアンス研修: 国内集合研修33回2,023人、DVD研修1,422人、海外グループ会社6社の幹部等506人に実施 化学物質に関わる法令を含めグループ全体で各国・地域の法令を遵守した事業運営を遂行	★★★ ★★☆
	17	グループ全体のコーポレート・ガバナンスの強化を図る	改正会社法、コーポレートガバナンス・コードに則した施策の推進 内部統制、リスク管理(「Top5リスクコントロール」活動)の継続実施と体制強化、内部監査の実効性の向上とフォローアップ 情報セキュリティ体制を整備し、企業情報管理を強化	社外取締役に対する、取締役会付議案件の事前説明や各事業の責任者との意見交換の機会を設置 ・重要な会議体の運営状況を評価しガバナンスが機能していることを確認 ・計画通り内部監査を実施、フォローアップ監査はグループ会社3社に実施 ・キャリア採用者を新たに対象に加え、従業員に対する情報セキュリティ教育を継続実施 ・情報セキュリティポリシーを次年度実施に向け策定中	★★☆ ★★★ ★★☆

※1: 2017年4月より表現を一部変更 ※2: 日本化薬単体の数値

CSRアクションプラン2017

No	中期CSRアクションプラン2016-2018	CSRアクションプラン2017
1	得意技術によるイノベーション推進と高品質な医薬品を信頼性の高い情報と共に安定供給することによって社会に貢献する	抗がん薬内包高分子ミセルとがん領域抗体バイオシミラーの開発推進、ジェネリック抗がん薬の遅滞ない上市
		国内、海外各拠点で生産体制の拡充・強化を進め、安全操業をもとに、世界の各地域において高品質な製品を提供
		グローバル市場の高まるニーズにマッチした新世代の製品の設計・生産・販売を計画通り実施
2	より多くの自動車安全部品をグローバルに供給することで、自動車衝突安全性の向上、人々の安全に貢献する	社会ニーズ(顧客価値)を的確に捉えた最良の製品に繋げる研究開発を推進(社内外の知的資産を融合した横断的研究開発の遂行、組織横断的な研究交流の場の提供と運営、コーポレート研究テーマの遅滞ない遂行)
		知的財産の創造・保護・活用の推進、国内外グループ会社での管理体制の強化
3	研究開発を遂行し、最良の製品を提供し続けることにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを支え社会に貢献する	
4	情報・通信、省エネルギー・省資源分野へ特徴のある機能化学品材料を提供し、「超スマート社会」の実現に貢献する※1	半導体・電子デバイスの軽薄短小化、デジタル印刷の進展に貢献する機能化学品材料を提供する
5	市場環境や顧客ニーズに適合した農薬を提供し、安定した農業生産に寄与する	新規殺虫剤の上市と製剤化技術を活かした工夫製剤の開発、既存剤の適用拡大
6	サプライチェーンマネジメントを推進する	CSR調達の推進による調達リスクの低減と安定調達を確保し、品質向上と適正購買を推進
		重大顧客苦情の発生をゼロにするため、なぜなぜ分析の実施、ヒューマンエラー防止の取り組み、再発防止策の水平展開、リスクアセスメントを継続して実施
		セイフティシステムズ事業におけるグローバル品質保証体制の強化活動を引き続き実施
		2020年度中期環境目標に向けた取り組みの推進
		エネルギー使用原単位対前年度比1%以上削減の取り組みの推進
7	製品品質に対する顧客満足度のさらなる向上を図る	グループ会社を含めた廃水処理技術の向上のため、廃水負荷削減技術および廃水設備運転最適化を検討、実施
8	省資源・省エネルギー・地球温暖化対策を推進し環境保全に寄与する	各地域における工場祭・懇談会・地域清掃活動・ピンクリボン活動・子ども体験型イベント(教育CSR)等の継続実施
9	廃水処理に関する環境保全技術を向上させる	企業価値向上を意識した財務・非財務情報をタイムリーかつ公平・公正に開示するとともに、ステークホルダーとの対話を充実化
10	地域社会とのコミュニケーションを通じて地域社会との共生と発展に貢献する	IFRS導入に向けての準備・調査を継続実施
11	ステークホルダーに対して適時適切な情報発信による対話を行う	多様な人材が活躍できる環境づくりと人材育成(ダイバーシティ&インクルージョン)(女性活躍の推進、グローバル人材育成、製造技術の継承・発展のための教育等)
		次世代育成支援対策推進法に則した取り組みの推進(育児・介護の支援、男性の育児参加促進、時間外労働の削減、有給休暇取得率の向上等)
		改正男女雇用機会均等法に則した職場環境の整備(セクハラ・マタハラ・LGBTへの対応)
12	人権尊重とワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供し、人材育成とダイバーシティを推進する	従業員の労働安全衛生へ配慮した健康経営の推進(メンタルヘルス研修の継続実施、ストレスチェックの実施、安全衛生にかかわる職場改善等)
		事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持する
13	事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持する	事故災害を未然に防止するための活動の継続実施(防災訓練、安全審査、化学物質管理の充実とリスクアセスメントの効率化等)
		グループ各社で「日本化薬グループ2016年度レスポンシブル・ケア方針」に基づく安全衛生活動を推進、海外グループ会社の環境安全診断および教育を実施
14	成長する企業グループとして安定的な収益を確保する	経営資源の最適配置と資本効率化を図り、中期事業計画の達成を目指した事業運営を推進
15	有事においても事業継続性を確保する	現場に則した訓練の実施、BCPマニュアルの見直しを継続実施
16	グループ全体へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る	グループ会社を含めたCSR・コンプライアンス研修の継続実施
		各国・地域の法令遵守、法改正等への迅速かつ適正な対応
17	グループ全体のコーポレート・ガバナンスの強化を図る	取締役会の実効性評価の実施、社外役員との適時な情報交換を通じてガバナンス体制を強化
		内部統制、リスク管理の継続実施と体制強化、内部監査の実効性の向上とフォローアップを継続実施
		情報セキュリティ体制を整備し、企業情報管理の強化を推進するとともに、情報管理に対する従業員の意識向上とグループ会社への展開を図る

※1：2017年4月より表現を一部変更